

# 会 派 活 動 報 告 書

令和 5年 4月 30日

岡谷市議会議長

小 松 壮 殿

会 派 名 令明 おかや

代表者名 浜 幸平

令和4年度における岡谷市議会 会派「令明おかや」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
調査研究	<p>○活動内容</p> <p>多摩川精機株式会社（飯田市）</p> <p>－航空宇宙産業に対する世界戦略企業の考え方－</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・開催日時：令和4年7月11日</li><li>・開催場所：多摩川精機株式会社本社工場</li><li>・参加者：浜幸平、藤森博文、中島保明、早出一真、今井義信</li></ul> <p>[研修の概要]</p> <p>説明に当たり、詳細なパワーポイントの資料を作成していただき、航空宇宙事業系の熊谷専務取締役（工学博士）より、事業内容が多岐にわたり展開されていて、1938年の設立の会社概要から、今後の世界のエアモビリティの動向までの解説を戴きました。説明では、2020年からの新型コロナウイルス感染症蔓延によって、打撃が大きかったこと、航空機産業参入については大変厳しい形式承認取得活動を説明戴きました。また、今後の世界産業の動きとして、2025年開催の「大阪万博」では、空飛ぶクルマが、移動手段として現実になっていくといった説明もありました。特に、米国航空機メーカーへの入り込みによって、自社製品の優位性を獲得したことについて今後への取り組みに弾みがついた、といった説明もありました。</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>摩川精機の敷地面積は、138,200m<sup>2</sup>（41,800坪）、工場建坪は、29,600m<sup>2</sup>（8,950坪）（東京ドームの約3倍）で、敷地内位に1938年～1998年までの「第1歴史館」と、1999年～2018年までの「第2歴史館」の二つの歴史館を所有しています。戦前の軍需用階動電動機を使用した油量計を、モータ式の将来を見据えて製造したこと、電波望遠鏡の制御に必要な高精度の角度センサの製造まで、一つの技術にとどまらず、短時間ではありましたが、世界（岡谷市）に何が必要なのかを見極めることを、学んできました。</p>

○活動内容

会派 視察

- ・開催日時 令和4年10月12・13日・14日 3日間
- ・参加者 浜幸平、田村みどり、藤森博文、中島保明、早出一真、今井義信
- ・開催場所

1日目・JAXA 宇宙科学研究所相模原キャンパス・宇宙科学探査交流棟  
神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1

「はやぶさ2」開発チームメンバーによる 研修

プロジェクトメンバー沢田講師

2日目・静岡県原子力防災センター

静岡県牧之原市坂口 3520-17

- ・浜岡原子力発電所・浜岡原子力館

〒437-1695 静岡県御前崎市佐倉 5561

3日目・静岡県地震防災センター

〒420-0042 静岡県静岡市葵区駒形通5丁目9-1

○活動の実績と効果

8月実施予定で2日間にわたる会派視察を計画しておりましたが、コロナ感染症の関係でスケジュールが組めずに10月に延期となりました。視察受入先には大変お世話になり、有益な視察ができたと感謝しております。さらに現地の関係者から具体的な内容の話を聞いたことで、今後の議員活動さらには、エネルギー政策また電気料値上げなど具体的な生活に関わる部分において広い視野からの考え方など、意見書審査また議会活動の場に於いて成果としたいと考えています。

【JAXA 宇宙科学研究所相模原キャンパス・宇宙科学探査交流棟】

○活動内容

ー宇宙科学のあゆみ、展示物についてー

ーはやぶさ2運用管制室、キュレーション設備,はやぶさ2運用についてー

- ・開催日時：令和4年10月12日
- ・開催場所：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA 相模原）

〔研修の概要〕

宇宙航空研究開発機構は、1955年のペンシルロケット実験から、大学共同利用機関として発展してきました。最近の主なミッションは、深宇宙探査（小惑星探査）、宇宙物理・天文（X線分光撮像衛星）及び宇宙工学（小型月着陸実証機）となっています。関連事業所は、北海道から九州（内之浦宇宙空間観測所）まで5か所あります。

はやぶさ2運用管制室、及びキュレーション設備の視察を行い、澤田主任開発研究員より、はやぶさ2運用に関しての説明を受けました。

○活動の実績と効果

はやぶさ2プロジェクトの一番大きな成果は、C型小惑星の物質のサンプルリターンであり、はやぶさ2が持ち帰った微粒子の分析で、生命の起源である20種類以上のアミノ酸や、水の痕跡も見つかっています。

日本の威信をかけた大きなプロジェクトに圧倒されました。特にはやぶさ2運用管制室は、計画成功のたびに沸き上がった熱気の余韻がまだ残っているようでした。すべてを排した周到な準備の結果、と思いました。産業界との連携については、JAXA事業推進部があり、民間とコンタクトしています。オンリーワンの技術を持ち、チャレンジ精神がある会社であれば、中小を問わず共同研究をしていく、と言われた澤田主任開発研究員の言葉を活用したいと思います。

**【静岡県原子力防災センター】**（オフサイトセンター）

○活動内容

- ・開催日時：令和4年10月13日
- ・開催場所：静岡県静岡県牧之原市坂口 3520-17

〔研修の概要〕

過去の原因事故の教訓から原子力災害への静岡県としての備えと、原子力防災の基礎知識に関する勉強をした後、「環境放射線監視センター」で農畜産物や海産物等の環境飼料の放射能を測定するための前処理室、灰化处理室、放射能測定室を見学しました。続いて「オフサイトセンター」合同対策協議会室にて合同対策協議会設置や役割について説明を受けました

○活動の実績と効果

様々な災害に対する防災、減災対策は過去の経験から培われてきました。特に原子力災害は起こさないことが大前提であるが、一旦起きてしまえば広大な範囲に被害が及ぶことや復旧復興にかかる時間も半端ないことは福島第一原子力発電所の事故から我々は学んできました。そのことから原子力防災センターの役割や必要性というものを強く感じました。

**【浜岡原子力発電所・浜岡原子力館】**

○活動内容

- ・開催日時：令和4年10月13日
- ・開催場所：静岡県御前崎市佐倉 5561

〔研修の概要〕

原子力発電所設備の構内へ入場許可されたので、手配されたマイクロバで現場を視察することができました。

1. 海拔 22 m の防潮堤の上に実際に立ってみるとその大きさが実感できます。また工事手法や盛り込まれている安全対策の具体的な実例が説明され得る限りの安全対策に向けて工事された状況がよくわかりました。

2. 施設内への入場にかかるセキュリティチェックについて、空港におけるチェック体制と同等以上のレベルが保たれていると確認されました。さらに制御室における運用作業においても3交代制が実施され、働き方改革などについても配慮されていることを、改めて認識できました。

#### ○活動の実績と効果

現場における総力を結集するため、普段より「現場対応力の強化」に取り組んでいる姿 具体的には「緊急事態対策組織」の整備、「緊急時速報班」による初等体制の強化・「資機材の充実」また教育訓練の充実強化など十分な安全対策に配慮されていることを認識いたしました。また

今回は 原子力発電所のみでなく、静岡県が運用している静岡県原子力防災センター(オフサイトセンター)の視察もでき、国・自治体等の連携の強化について確認することができたことは大変有益であると考えます。現在 3・4号機の新規制基準への適合確認審査の申請が行われているとのことで 今後ともその動向に注視したいと考えています。

#### 【静岡県地震防災センターの視察】

##### ○活動内容

- ・開催日時：令和4年10月14日
- ・開催場所：静岡県静岡市葵区駒形通5丁目9-1

##### [研修の概要]

静岡県危機管理部参事及び地震防災アドバイザーから、当防災センターの概要や設置の目的、利用状況、諏訪地域も含めた地震や異常気象による災害についての説明及び施設内の見学と震度7の地震体験をしました。

##### ○活動の実績と効果

この施設は静岡県が運営し、県民の防災意識の高揚、東海地震への備えや知識等の向上を目指した防災情報の発信拠点であること、「知る・備える・行動する」ことが重要であることを再認識しました。

##### ○活動内容

#### 【後藤経済再生担当大臣表敬訪問・国会見学】

実施日時 令和4年12月16・17日 2日間

参加者 浜幸平 田村みどり 藤森博文 中島保明 早出一真 今井義信

開催場所 内閣府(合同庁舎8号館)

##### [研修の概要]

後藤経済再生担当大臣を表敬訪問し政府が行っている政策や地方の課題について意見を交わしました。特に後藤大臣の所管である経済対策については、我が国の経済はロシアのウクライナ侵攻以降、コロナ禍からの緩やかな持ち直しが続いている一方で、物価高騰やエネルギー高、さらに世界的な景気後退

	<p>など我が国を取り巻く環境は厳しさを増していることから、物価高騰を克服しつつ構造的賃上げや計画的で大胆な投資を官民連携で推進するなど、新しい資本主義により我が国経済を民需主導で持続可能な成長経路に乗せるための施策を展開していくことが今後の我が国にとって必要であるということであり、経済対策について改めて理解をいたしました。</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>日本の中核で活躍する後藤経済再生担当大臣の仕事ぶりを間近で拝見することができました。一国の大臣であり日本の経済対策やワクチン接種等々、様々な対策を担っておられ日々全力で職務を全うしていることに敬意を表すると同時に、今回、後藤大臣を訪問し改めて我が国の現状が理解できたことと、地方創生を果たすためには、国との連携が非常に大切であり、議員がその職責を果たすことが大切であると再認識いたしました。</p>
<p style="text-align: center;">研 修</p>	<p>○活動内容</p> <p style="text-align: center;">元長野県副知事 中島恵理氏を交えての環境問題研修会 ーゼロカーボンの地域づくりー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日時：令和4年6月8日</li> <li>・開催場所：富士見町信濃境駅前 カフェ&amp;スペース「ひこうせん」</li> <li>・参加者：浜幸平、田村みどり、今井義信、藤森博文、早出一真、中島保明</li> </ul> <p>[研修の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当市は令和4年(2022年)3月22日に「2050年岡谷市ゼロカーボンシティ宣言」を発出しました。しかし、その2050年カーボンニュートラル達成に向け自治体、企業、家庭はどう行動したらよいか、また我々地方自治体の議員は何をしたらよいか等わからないことが多い状況です。</li> </ul> <p>そこで、長年環境省において、環境問題のエキスパートとして勤務され、また長野県の副知事としても活躍されて地方の行政にも明るい中島恵理氏から多くを学ぶ必要性を感じ、講師としてお願いしました。</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>国のゼロカーボン宣言のあと押しをしたのが地方自治体のゼロカーボン宣言であったこと、また地方自治体の先進的で積極的なアイデア(計画)の提案が国庫補助の採択につながっていることなどを例にとり、これからは、地域や一人ひとりの行動がとても大切であり、それが国を変えていく力だと教えられました。また、この研修場所の「ひこうせん」は彼女が主宰する《こどもの未来を考える会》が運営しており、子どもの居場所づくりを一番の目的にしています。研修のあとの親睦食事会ではみんなでビーガン食をいただきました。菜食料理に親しみ、都会暮らしから富士見町に移住し、農業で土に触れ、地場産の木を使い夫婦で作った家に住み、地域の人々と一緒に地域のこどもたちを見守る…中島恵理氏自身が確実にカーボンニュートラルに</p>

向かって生きておられました。

○活動内容

研修会 テーマ「今後の電力需給に関する勉強会」

- ・開催日時 令和4年7月7日
- ・講師 中部電力パワーグリッド 内山 卓也・小野寺 謙介  
・長崎 進 以上3名
- ・開催場所 市役所 社会委員会室
- ・参加者 岡谷市市議会議員6人・企画政策部・危機管理室・環境課  
など所管職員10名ほど

〔研修の概要〕

午前10時より 「需給逼迫また燃料高騰による電気料金値上げなどの展望」  
について 中部電力ミライズ名古屋支店統括課長様より講演を頂きました。

「電力ネットワーク」の仕組み、「需要に合わせて供給量を増減できる業務フ  
ロー」などについて また・午前11時半 より講演内容についての質疑応答  
を行ない 概ね12時終了しました。

午後については 13時より 一時間半ほど「浜岡原発施設の耐震化工事、安全  
対策と監視機能」などについて、中部電力ミライズ名古屋支店 原子力発電  
統括課長 様より 講演いただきました。10月に 会派視察として浜岡原発を  
視察予定となっていることを含め事前学習の意味合い 大変有意義な勉強会  
となりました。

○活動の実績と効果

講演会の内容については新聞各社で取り上げられ、折から電気料金値上げ  
の話題もあったことから 関心が高かったものと思われます。

本市には中小の製造業が多数あり 電力とは密接な関係のある地域であり  
今後の電気料金値上げなども含め、意見書の審査などに合わせ議員活動のた  
めに役立てていけることと考えております。

広 報

○活動内容

会派ホームページの更新と運用

令和3年9月から開設している会派ホームページについて、その後の  
情報などについて新規登録を行いホームページの運用を行ないました。

作成された会派ホームページのアドレス

<https://reimei-okaya.hp.peraichi.com/>

主な内容については令和4年度において下記の情報追加を行いました。

- ・4月18日 令和4年度会派総会
- ・6月8日 環境問題の研修会

富士見町在住の中島恵理氏 元副知事

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8 月 25 日 諏訪地方の産科の現状について 平出深雪助産師</li> <li>・ 7 月 7 日 今後の電力需給に関する勉強会 開催</li> <li>・ 11 月 1 日 市長に令和 5 年度予算要望書の提出 等であります。</li> </ul> <p>○活動の実績と効果</p> <p>それぞれについてスペースは限られますが、写真と文章によりできる限り分かりやすく情報発信に努めました。また加えて個人のホームページへのリンクを貼り誘導を図るとともに会社としての活動のPRに努めました。このホームページはスマートホンで閲覧できるため画面の大きさについての制限はありますが手軽なPRの手段として大変有効であったと考えております。</p>
<p style="text-align: center;">広 聴</p>	<p>○活動内容</p> <p>テーマ「諏訪地方の産科の現状について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施日時 令和 4 年 8 月 25 日 (木) 11:00～</li> <li>・ 開催場所 市役所 会派室にて</li> <li>・ 参加者 平出深雪助産師 浜幸平 藤森博文 今井義信 中島保明 早出一真 田村みどり</li> </ul> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内で助産院を開業している平出深雪助産師から諏訪地方の産科及び助産師の活動など現状をお聞きいたしました。</li> </ul> <p>○活動の実績と効果</p> <p>[助産師からの聞き取りでわかったこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、妊婦の 99%が病院施設での出産を希望しているが、残りの 1%の妊婦は自宅や助産院などを希望しています。ところが、その助産院などでの出産時に協力してもらわなくてはいけない産科の嘱託医が医師不足等によって減少しており助産院での出産ができない現状があります。</li> <li>・ このままでは、病院の出産に疑問を持ち、自然分娩を希望する妊婦のニーズに答えることができません。</li> <li>・ 助産師は妊娠から出産、子育てまで一貫して妊婦、母親に伴走してサポートができる重要な仕事です。</li> <li>・ 産後気になる母子がいる場合、出産した病院から各市町村の担当課にサマリー（医療・診察記録の一つであり、入院中の患者ここでいう母子の治療や経過、検査結果など、すべての診察内容記録の要約を記したもの）が送付されていますが、そこから地元の助産院につながる件数は少なく市町村や病院で情報を抱え込んでいる状況があるのではないかと考えます。それでは地域で活動している助産院での母子に対するサポートをしたくてもできません。このままでは、将来的に助産院の存続が難しくなってしまいます。</li> </ul>

	<p>[今後の議会活動にかきたいこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪地方の産科及び助産師活動の現状につきまして、助産師の生の声をお聞きする貴重な時間を持つことができました。そこで、産科のある病院と助産院と市町村が連携することも必要であることが理解できました。</li> <li>・女性にとって出産は人生の分岐点であるとても重い選択になりますので、出産のあり方などにも注視することが、少子化対策にも通ずるのではないかと理解しました。</li> <li>・妊娠から出産に関する相談窓口の一つとして、行政機関へ助産師及び助産院との連携の可能性を提案など模索することも必要ではないかと考えました。</li> </ul>
<p>要請・陳情</p>	<p>○活動内容</p> <p><b>I 【市長への令和4年度予算要望提出】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日時 令和4年11月1日</li> <li>・参加者 浜幸平 田村みどり 藤森博文 中島保明 早出一真 今井義信</li> </ul> <p>会派の活動方針として、市政に対し政策立案・政策提案していくことが重要であると位置づけています。令和2年度及び令和3年度上半期を総括し、令和4年度の市政方針について会派の思いを込めた予算要望書（会派政策提言）を市長あて提出しました。</p> <p>活動状況：9月、10月に複数回の会派会において検討を重ねた。</p> <p>要望の重点項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 新型コロナウイルス感染症への対応と地域医療連携</li> <li>◆ 激甚化・頻発化する自然災害に備えた防災・減災体制の強化</li> <li>◆ 新型コロナウイルス感染症により影響を受けた地域経済の活性化</li> <li>◆ 地域福祉・地域医療の充実</li> <li>◆ 次世代を担う子どもの育成支援、保育及び学校教育の充実</li> </ul> <p>○活動の実績と効果</p> <p>令和4年度3月議会にて、本要望書の令和4年度事業への反映を予算委員会で審査検証した。</p> <p>-----</p> <p>○活動内容</p> <p><b>II 【意見書の提出】</b></p> <p>令和3年6月の会派設立時に、「年4回の各定例会において、少なくとも一つの意見書を発案する」を目標に掲げ、定例会前の会派会において、課題を抽出し、内容及び文章について議論と推敲を重ね意見書原案を作成・提出し、各派交渉会、本議会での採決を経て、岡谷市議会としての国と県への意見書提出に結び付けてきました。今年度も都度複数の課題を抽出して検討を重ねた結果、会派として1件の意見書提出につなげることができました。</p>



	<p>○活動の実績と効果</p> <p>1 地域の医療提供体制の確保を求める意見書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案可決日：令和4年第4回定例会（令和4年9月30日）</li> <li>・目的・趣旨：新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、危機に柔軟に適応管理できる医療体制を再構築する必要がある、地域の医療提供体制の確保や、医師確保・偏在解消問題など、自治体や病院の取組だけで改善することは困難なため国家レベルでの実効性ある施策が不可欠であり、地域の医療提供体制の確保を図るため特段の措置を強く要望しました。具体的な要望項目は以下になります。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域の中核病院の経営の安定化と感染症を含めた危機管理及び医療体制の構築に向けて、引き続き適正な財政支援を講じること。</li> <li>②医師不足・医師偏在解消の実効性を高めることが重要であり、都道府県が策定する医師確保計画について国が適切に支援し、医師偏在対策の実効性、即効性を確保すること。</li> <li>③電子カルテの標準化推進と導入・維持・更新における財政支援とA Iの導入・活用への財政措置の拡充を図ること。</li> <li>④地域医療構想については、病床の削減や統廃合ありきではなく、地域の実情を十分に踏まえ適正な見直しを図ること。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期待効果：提出時期、内容については市民の思いを代弁でき、また行政に対する後押しにもなったと思います。</li> <li>・本議会採決結果：全会一致で採択されました。</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>○活動内容</p> <p>○活動の実績と効果</p>

**【活動実績】**

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。